

## オープン カレッジ

中国が世界第2位の経済大国になってから、すでに7年が経過した。経済分野で、中国はこの地位を確実なものとしている。しかし、キャッチアップ途上の分野も多い。その一つが科学分野である。中国の次の目標は、科学立国である。

科学力は産業の高度化につながる。その一つの鍵が特許である。出願数では中国はすでに世界首位であり、アメリカの約2倍である。WTO加盟以降、中国の知的財産制度が整備され

### 特許から見る中国の大学の實力

	2000~2004年	2005~2009年	2010~2014年
総出願数(件)	731.00	2376.60	5195.05
共同出願数(件)	86.20	269.25	579.80
登録数(件)	601.26	1672.79	3326.89
登録率(%)	77.4	68.8	61.7
技術領域数(件)	125.20	209.85	278.80

に分析した。日本の主要大学(旧帝国大学と東京工業大学)の平均と比較したい(表参照)。

表から次のことが分かる。第一に、総出願数、共同出願数、登録数が一貫して伸びている点である。総出願数は、約5200件に達し、大学が企業並みの出願数を誇る。これは、日本主要大学の4倍である。第二に、登録率がある程度維持されている点である。総出願数が2倍以上に増加しているが登録率の低下は緩やかである。質がある程度維持されていることが推察される。第三に、出願領域数が増加している点である。日本のほぼ2倍に達しており、中国の大学の出願領域が特定の分野に偏っているというわけではない。このように見ると、中国の大学の出願活動は極めて活発である。確かに世界的には特許にならないような出願も多いと言われている。だが、いずれは量が質を凌駕(りょうが)する可能性がある。

# 量は質を凌駕するか？

出願が激増した。もちろん質を伴っていないという指摘もある。

科学立国になるためには



中本 龍市  
 榎山女学園大学 現代マネジメント学部准教授

なかもと りゅういち 組織論、戦略的提携、社会ネットワーク、ビジネスリサーチ。京都大学大学院経済学研究科博士後期課程指導認定退学。1983年生まれ。

文数や先進国との国際共同研究も増加し、この時期に大学発特許も急増してきた。では、特許を通して見た場合、中国の大学の實力はどの程度のものであろうか。大学発特許は、基礎研究と応用研究の橋渡し機能があるため重要な指標である。筆者らの研究グループは、2000年から14年までの15年間の特許データを元に中国の主要20校(北京大学、清華大学、浙江大學、上海交通大学など)を対象

に分析した。日本の主要大学(旧帝国大学と東京工業大学)の平均と比較したい(表参照)。

表から次のことが分かる。第一に、総出願数、共同出願数、登録数が一貫して伸びている点である。総出願数は、約5200件に達し、大学が企業並みの出願数を誇る。これは、日本主要大学の4倍である。第二に、登録率がある程度維持されている点である。総出願数が2倍以上に増加しているが登録率の低下は緩やかである。質がある程度維持されていることが推察される。第三に、出願領域数が増加している点である。日本のほぼ2倍に達しており、中国の大学の出願領域が特定の分野に偏っているというわけではない。このように見ると、中国の大学の出願活動は極めて活発である。確かに世界的には特許にならないような出願も多いと言われている。だが、いずれは量が質を凌駕(りょうが)する可能性がある。